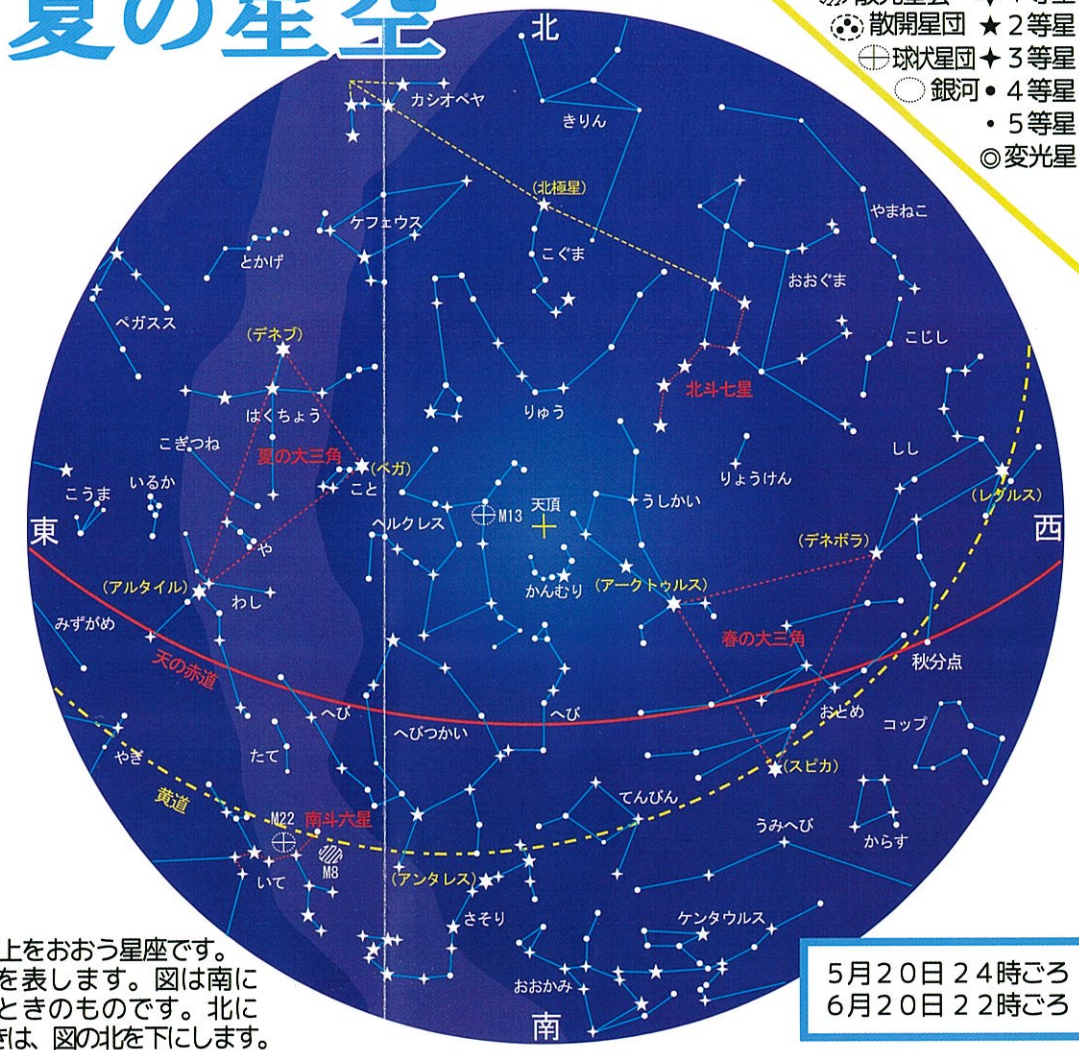


春の星空



3月15日 22時ごろ
4月15日 20時ごろ

夏の星空



- 散光星雲 ★ 1等星
- 散開星団 ★ 2等星
- 球状星団 ★ 3等星
- 銀河 ★ 4等星
- ★ 5等星
- ◎ 変光星

5月20日 24時ごろ
6月20日 22時ごろ

この天頂中心図は、頭上をおおう星座です。まわりの円は地平線を表します。図は南に向かって星空を見たときのものです。北に向かって星空を見るときは、図の北を下にします。

水星が夕方、西の空に

水星が太陽から最も大きく離れるタイミングを最大離角と呼びます。3月8日がその日に当たり、この前後のところが観察の好機となります。

今回の東方最大離角では、日の入り45分後の水星の高度が8度あり、水星としては比較的好条件です。この時期の西の低空には宵の明星の金星が輝いていて、水星を見つける大きな目印となってくれます。-0.3等級と明るいので、位置がわかれば肉眼でも見ることができます。ぜひ、探してみてください。

金星が明け方の空にお引越し

年初めから3月中旬頃まで「宵の明星」として夕方の西の空に見えていた金星は、4月以降は明け方の東の空で「明けの明星」として輝くようになります。日の出60分前の高度は20度ほどと低めですが、-4等級の圧倒的な輝きが早起きの人々の注目を集めるでしょう。

ちなみに、日の出60分前の高度が最も高くなるのは、7月末ごろとなります。その頃は、日の出前でも暖かく、心地よい気候かもしれません。早起きをして、探してみるのもいいですね。

土星の環の消滅

土星は、29.5年周期で太陽の周りを公転していて、約15年ごとに赤道の真上から太陽光が照らされます。このとき、赤道上に広がっている環は、真横からの厚みは数十から数百メートルほどしかないので、遠く離れた地球からは見えなくなります。5月7日がその日ですが、残念ながら明け方の東の低空にあり、観察や撮影は難しいです。

しかし、11月24日には、土星の環が極細となり、夜に見ることができます。そちらもお楽しみに。